



平素より医療関係者・介護関係者のみなさまには、若松在宅医療・介護連携支援センターの事業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

### 【研修会のご報告】

○令和5年度多職種連携合同研修会（1月19日開催）

『北九州市の現状と認知症施策について』

講師：北九州市認知症支援・介護予防センター 認知症対策推進係長 山内順子 氏

『認知症の人と家族に対して専門職に求められる姿勢』

講師：東京慈恵会医科大学精神神経科 教授 繁田雅弘 先生

認知症の方に対する先入観に支援者が先ずは気付くことが大切であるということから繁田先生のご講演が始まりました。「認知症の人」としてではなく、人として接することができていたか、1人前の人として接することができていたか、分かっている人として接することができていたか、支援を先回りしてないか、自問自答しながら今までの支援を振り返る機会となりました。先ずは本人に寄り添って安心してもらうことが支援の始まりであり、支援者は本人の思いを汲み取ることに集中し、過小評価せずに支援することが大切であるということを確認することができました。



○令和5年度若松区在宅医療・介護従事者研修会（3月18日開催）

『いつもと違う…そんな時…何を見る？どう動く？』

介護現場で活かせるポイントを押さえた急変対応

～救急の判断とその後の動き～（一時救命処置含む）』

講師：製鉄記念八幡病院 救急看護認定看護師 龍田幹政 氏

介護現場において、急変時に医療職が不在、マンパワー不足、環境が整っていない等の場面では、より精神的ストレスを感じやすいと言われています。その様な状況を考慮し、講演では、介護現場の目線から、①第一印象について、②受診・救急搬送時に必要な情報について、③一次救命処置について、わかりやすく丁寧にご説明いただきました。実技では、製鉄記念八幡病院より心肺蘇生用の人形と練習用 AED をご準備くださり、参加者一人ずつが一次救命処置の実技を行うことができました。心配蘇生法の受講歴が初めての方、何十年ぶりの方、最近受講された方等様々でしたが、新たな学びや再確認ができ、貴重な学びの場となりました。



### 【普及啓発について】

私たちは、地域のサロンや老人クラブ、地域交流支援通所事業（いきデイ）等で「在宅療養」や「人生会議（ACP）」、「とびうめ@きたきゅう」について普及啓発のための講演を行っています。これから先の未来、1人1人が地域包括ケアシステムが目指す「**住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる**」ように、自分が大切にしたいこと、好きなこと等をお元気うちに周囲の方々と共有していただくようにお話をしています。それが**自分らしい暮らし**を叶える大切な**鍵**へと繋がっていきます



### 【とびうめ@きたきゅうの登録状況】



いつも登録促進にご協力いただき、有り難うございます。3月末までの新規登録者数は44,205名、うち若松区内4,623名の方に登録いただいています。とびうめ@きたきゅうは消防局指令センターでも閲覧が可能です。傷病者の情報等が得られずに救急活動に支障が生じた場合に活用されます。万が一の際の安心材料として、引き続き登録促進にご協力をお願いいたします。